

2017年度支部例会開催報告

岩崎 雄吾

2017年度（第7回）支部例会は、9月1～2日の二日間にわたって名古屋大学農学部で開催された。

第1日目は招待講演会で、若手・中堅の先生方を中心に7名の先生にご講演いただいた。

- ・清水一憲先生（名大院・工）「マイクロ・ナノ技術を利用した細胞培養法の開発と応用」
- ・田口悟朗先生（信州大・繊維）「植物のフラボノイドC-配糖体とその生合成酵素の解析」
- ・松崎千秋先生（石川県大・生物資源研）「機能性乳酸菌の探索と応用」
- ・加藤竜也先生（静大・農）「改良型カイコ核多角体病ウイルスの構築と応用」
- ・戸田弘先生（富山県大・生工研セ）「物質生産プラットフォームとしての有機溶媒耐性菌の利用および分子育種ツールの開発」
- ・河原崎泰昌先生（静岡県大・食品栄養科）「出芽酵母を用いた組換え蛋白質生産」
- ・馬場保徳先生（石川県大・生物資源研）「ウシルーメン液を活用したメタン発酵システムの開発」

いずれの講演も非常に充実していた。講演後は会場から多くの質問が寄せられ活発な議論が行われた。

2日目は午後から大学院生・ポスドクによる若手講演が行われた。優秀な講演には支部幹事の投票により支部長賞が授与されることになっている。10名の講演者による質の高い発表がなされ、発表後は質疑応答が繰り返された。以下に発表者と演題を記載する。

- ・渋谷真結（名大院・創薬）「3次元培養細胞の画像情報を用いたフェノタイプスクリーニング技術の開発」
- ・村瀬祥光（三重大院・生資）「海藻由来の希少糖4-deoxy-L-erythro-5-hexoseulose uronic acidの製造方法」
- ・藤谷将也（名大院・創薬）「細胞画像情報解析を応用したフェノタイプ創薬スクリーニング」
- ・藪谷哲也（アステラス・製薬技）「シクロスポリン類縁体FR901459の放線菌 *Lentzea* sp. 7887による水酸化反応の効率化」
- ・青木奈緒子（三重大院・生資）「バイオマスを用いた嫌気性菌増殖過程の熱測定法による評価」
- ・Aem NUYLERT (Dept. Biotechnol., Toyama Pref. Univ) 「Characterization of hydroxynitrile lyases from two passion fruits, *Passiflora edulis* Sims and *Passiflora edulis* forma *flavicarpa*: stabilization effects by glycosylation」
- ・加藤晃代（名城大・農/学振）「N末端SKIKペプチドタグによるタンパク質発現増大に関する研究」
- ・今井健人（名大院・工）「機能性ペプチドの分解抵抗性経口投与方法」
- ・松田貫暉（福井県大・生物資源）「streptothricin類縁体合成遺伝子群に見出したaminoacyl-tRNA依存型ペプチド合成酵素における基質認識機構の解析」
- ・磯崎勇志（三重大院・工）「次世代分子標的治療薬を目指した新規モノクローナル抗体作製技術の創製」

若手講演会終了後、交流会を開催した。その席で、支部長賞が授与された。三重大・青木氏と名城大・加藤氏の2名が受賞した。例会参加者は58名で、そのうち34名が交流会に参加し、料理を完食したところで散会となった。

最後に、多くの講演者・参加者の皆様に御礼申し上げます。

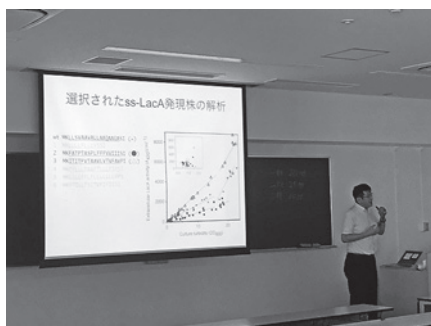


図1. 招待講演の様子



図2. 支部長賞授与（左から青木氏、中野支部長、加藤氏、鈴木副支部長）